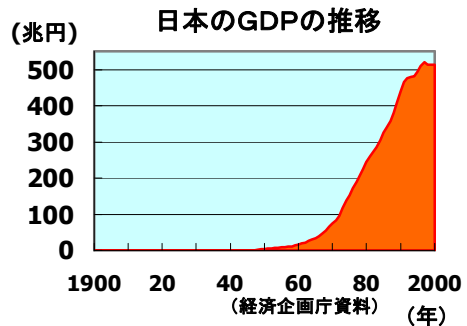


日本の現状

2005. 6

● 40年で40倍の経済成長

日本経済は毎年平均10%伸び、この40年間で40倍という驚異的な発展を遂げました。江戸時代300年間に経済がほとんど拡大しなかったことを考えれば現状がいかに凄まじいかが分かります。日本人のGNPは何とモザンビークの600倍、ロシア、中国の50倍、アメリカの1.3倍に達したのです。



● 驚異的成長の理由

終戦当時、世界中の食糧事情は悪化し、参戦国の多くは食糧自給率70%に落ち込みました。戦後ほとんどの国が自給自足を回復する中、日本だけが自給率を下げ続け、現在は30%となりました。なぜでしょう。

国の経済政策として、労働力や資本を、経済効率の悪い第一次産業から経済効率のいい第二次産業へと転換したのです。「集団就職、金の卵、出稼ぎ、都会へ、工場へ」のキャッチフレーズで農家の若い次男坊、三男坊が都会へ、工場へ出ていったのを覚えておられるでしょう。

その結果、時計、カメラ、テレビ、自動車、半導体と次々と飛躍的な発展を遂げた一方で、農業は壊滅的打撃を受けたのです。

日本の驚異的経済発展は、第一次産業の犠牲の上に実現したのです。これほど極端な政策をとった先進国は他に例がありません。

しかし今なお減反政策が進められているのです。

● 世界の最貧国日本

日本の面積は世界の陸地の0.3%、人口は2%、消費は15%。

その日本は自給率では世界最低。食料の75%、エネルギーの95%、木材の80%、鉱物の90%を外国に頼っているのです。

日本はデータから明らかなように世界の最貧国でありながら世界最大の大量消費国なのです。それでもなお減反政策を続け、大量消費に拍車をかけ突っ走っているのです。まさに東洋の神秘の国です。

● 生存基盤の回復

今後、世界規模の資源枯渇、環境破壊、食糧不足が避けられません。

生存基盤の弱い日本が生き残る道は、生存基盤を強化すること、つまり自給自足を回復する以外にないのです。

そのためには工業偏重から第一次産業重視に転換しなければなりません。

日本の産業別の人口分布の現状、第一次産業7%、第二次産業34%、第三次産業59%を、本来の比率50%、25%、25%に戻していくことが必要です。それには大量消費や大量廃棄を低減させることが欠かせません。